に近づく時薩軍の塁を発見、副指揮官警備隊長高田吉岳大尉は、すでに東天が白み始めたため、後続部隊を待つことなく単独で攻撃することに決心した。警備隊としては実戦の最初である。塁の正面から強攻したが、幾重にも立っている鹿柴・木柵を除きながら進む時発見され、銃弾が降りそそいだ。高田大尉以下士官三名と、下士官兵卒は十三名があっという間に戦死、負傷者が続出し警備隊第三小隊は壊滅した。

後続の本隊はこの銃声に急きよ駆けつけ兵力を投入したが、急坂と泥土に足をすべらせて進めない。第四中隊も士官一名、下士卒四名の戦死、津下少佐はやむなく退却を命じた。士官四名、下士兵卒十七名戦死、負傷者四十五名。豊日戦中最大の犠牲を払うことになった。

「勝って兜の緒を締めよ」との諺があるが、経験不足が招いた敗戦であったといえる。

紹介

兵旅の旅　編集　北部九州郷土部隊史料保存会
—北部九州郷土部隊70年の足跡—
執筆　案浦熙彦氏
（陸上自衛隊第四師団司令部）

案浦氏は先年堅目合戦の現地を高水会長以下殺人の会員と共に歩いた方、さすが戦術戦略にくわしい方で、前掲のようにまことに的確に、適切に西南の役を説明してくれました。城山の悲劇は、死んだ河野与一氏に聞かせたい。きっと涙を流して下さるでしょう。

全五巻　その第一巻出版（明治大正編）
三三〇頁　定価六、七〇〇円
発行　西日本新聞社

故河野與一編
招魂所墓碑調査書
西南の役百周年を期して
再版した上の——

先般の慰霊祭参列の方々に、十二年振りに再刻・印刷して配ったもの、残部少々あり・希望者に頒ちます。お申越下さい。

報告

西南の役百周年記念行事
佐伯招魂所—墓前慰霊祭など実施報告

当日は九月二十六日はあいにく雨になったが、予定の通り盛大に執行出来た、概要次の通り

㈠　招魂所墓碑参拝

小雨ながら参拝会員三十数名の、捧げた線香の煙が広い墓域に流れはじめた頃、幸い会員の龍護寺森本住職の参拝があったので、これ幸いと一々の墓前読経をお願いする。線香は消ゆることなく、会員も手分けして一基づつおまいりする。軍人百三十四柱、警察官十四柱、合せて百四十八柱の戦没者が、佐伯市住坪の岡の谷の、この陸軍墓地に、今はいつまでもおだやかに眠っている。正しい呼び方は「佐伯招魂所」である。

雨が降るので手早やにこと終り、五所明神社の方に移動したが、参拝された山田先生未亡人から、短歌をいただいた。

西南の役にたおれしものの
ふの読経ながるる
秋雨の中

曼珠沙華咲く岡の谷ますらおの
小さき墓石
香煙は流るる

㈡　百周年慰霊祭

場所は五所明神社の拝殿である。斎主は五所明神社の橋法古若宮司、祭壇がととのい修祓・祝詞奏上、心なしが弥の外感銘ふかいものがあった。明治の新政に対する反撥が、思いがけないほどの動乱となり、不幸その犠牲

となったのが、敵味方とも戦没者であった。

祝詞がおわり、玉串をささげて拝礼の後、市野瀬・清水両会員の慰霊吟詠があり、参列者佐伯警察署、ライオンズクラブ、市連合区長会並びに大分合同新聞の代表者から、適切なご意見などの問隙があった。

閉式の後直ちに懇会に移り、いろいろな意見が出たが、次の二点はすぐに実行働きかけることにきめた。

○国有のこの招魂所を佐伯市が払下げを受け、保存管理に当たり、史跡として文化財に指定する。

○境内に桜苗を植込み、境内をととのえる。

尚、中食後「西南の役の戦局の推移」についての講話や、各地区の伝承など座談会がつづき盛会であった。

出席者五十三名（墓地参拝のみの方も入れ）

㊂ 西南の役関係文献頒布

○ 招魂所墓碑調査書（冊子）

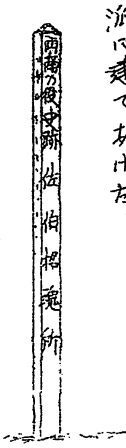
本書は今は故人の河野興一会員が、昭和三十九年一月調査、翌四十年三月印刷して一部会員に頒布したもの。これを再刻してこの日の参会者に配った。（尚残部少々あり、字目・直川・蒲江の希望会員に呈上、お申込みに応ず）

○ 平井家西南役資料

五所明神での座談会で見せていただいたもの、官義雄会員がコピー印刷してくれた。残部僅少ながら申込みに応ずる。

㊃ 佐伯招魂所の標柱建つ

慰霊祭ハ今回の行事に間に合わせたく、依頼していた招魂所の標柱が立派に出来上ったので、去る十月二十三日、高木会長外羽柴・清田・小野㊀会員四名が出かけ、立派に建てあげた。



四寸角、杉材　ペンキ塗
高さ　三メートル（地中七〇センチ埋込む）
場所　招魂所入口右側

（向って右側）戦没百周年墓前慰霊祭執行

（正面）西南の役史跡　佐伯招魂所

（向って左側）昭和五十一年九月二十六日

（裏面）佐伯史談会建之

㊄ 桜苗の申込みと市長交渉

慰霊祭がすんだ三、四日後、緑化推進苗木を県に申込むメ切がきていると聞きこんだ羽柴幹事は、市役所農林水産課に出かけ、来春植込み桜苗五十本を、招魂所植込みの事情を申述べて、係りから受理していただいた。

つづいて十月七日、高木・羽柴・武石・清田の四名は、市役所に池田市長を訪ね、佐伯招魂所を大分財務部から佐伯市に払下げてほしいという陳情をした。すでに佐伯市ではこのことについて働きかけていること、希望の通り早急に払下申請事務をとるよう、係りを呼んで指示打合せをして下さった。

来年早々実現という風に進むとありがたいのだが―。

㊅ 西南の役 直川資料

直川村には激戦地陸地峠があり、西南の役に関する伝承記録が多い。直川村郷土史第一輯は御井雅雄氏執筆、特に「西南の役郷土戦史」としてよくまとまっている。

また「直川史談」には山下会長、橋迫太作氏らがよく書かれている。一読をすすめたい。

（羽柴）